役者いつち

623

302
11

始

序　風くゑて雷(いかづち)

それ天地のあいだにありとあらゆるものゝなかさ尤
やうめんのありそうなものにて是ぜんにおとをならし
いしよりもおびへおそろしきものはくわらくわら
すさまじいものは雲のうへにおそろしき
まちおそろしきこふしたるものおかみなりさま
雨おこりひかりをおそろしさいなづまのおこる
いまのこれにおそろしきに絵を一つ此書に
今人は雷をおそるといふことをしりてかくすがたに雷と云
おそれ給ふものおそれの絵を学たるのれくの目
に入る絵にかきたるはなしのかのおもひ
をいたすものにおふりさいやうくなり
先年みてのこゝち金銀手遣ひえと云ことけれい
皆様の御ひいきにてまちうりやうまいらす

[illegible]ましたる[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]去年[illegible]

[illegible]一紙[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の内七八人[illegible]十人

[illegible]

于時元禄七年甲戌今月今日

[illegible]二百九分

ろ 市川香[illegible]

い [illegible]

い [illegible]

に 松[illegible]

に [illegible]

へ [illegible]

と [illegible]

ち [illegible]

り [illegible]

ぬ [illegible]

[illegible]

い [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市川[illegible]郎
松本[illegible]

[illegible]小かん
村山[illegible]

藤田[illegible]
[illegible]小八郎

若衆方之分

い [illegible]小[illegible]
ろ 市川団[illegible]
に 吉田[illegible]之介
に 松本[illegible]之介
ほ [illegible]之介
へ 尾上[illegible]

さ [illegible]平八
ち 松山[illegible]之介
り 松本小[illegible]
ぬ 生嶋大[illegible]
る [illegible]平七
り [illegible]

わ [illegible]
を 市川団[illegible]
た [illegible]
ふ 中山[illegible]之介
た [illegible]
れ [illegible]田村

立役者之分

花井才三郎○
荒木与次兵衛○
[illegible]○

ほ 藤田[illegible]
ほ 山中平九郎
ほ 山川[illegible]

松本[illegible]
村山[illegible]
[illegible]松小[illegible]

[illegible]役者之分

い 中村七三郎
ろ [illegible]村[illegible]
ろ [illegible]
は 村山[illegible]八
は 市川団[illegible]
に 生嶋新五郎
に [illegible]小[illegible]
に 大[illegible]
に [illegible]八
に 富沢[illegible]三郎
に [illegible]
に 荻川[illegible]

へ [illegible]十[illegible]
へ 村上[illegible]
へ [illegible]
へ 松本[illegible]
さ [illegible]
へ 市川[illegible]
○ 生嶋[illegible]

藤田[illegible]

中村[illegible]
松山[illegible]

[illegible]村[illegible]
市川[illegible]
中[illegible]
山[illegible]
田村[illegible]
藤田十[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
村山十[illegible]
山中十[illegible]

京 中村[illegible]九[illegible]

い 大谷廣右衛門
ろ 嵐音八
は 村山十平次
に 中嶋勘左衛門
に 松山源五
ほ 田村国右衛門

どうけ方九分

い [illegible]
は 浅尾かん六
に 松村源三
ほ [illegible]
ほ [illegible]
へ 大谷与八
へ 山田[illegible]八

花車方九分

い 大川伊吉
は [illegible]
に [illegible]
に 山中[illegible]
ほ 松本[illegible]
ヘ [illegible]
と 松本[illegible]
と [illegible]
は [illegible]

[illegible]方九分

い [illegible]
い [illegible]
ろ 小川[illegible]
は [illegible]
に [illegible]

[illegible]方九分

[illegible]
[illegible]八
[illegible]

おやじかたの分

[illegible]
[illegible]
[illegible]
山中小松
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
山村[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]

右ハ分評ニ不及故除之ミヽ記ス

大坂立役

市川香蔵

▲此君いせんハ正がくにて京よりはじめがくにてからいせくなり候ひらにて仕出し当年はけ分に江戸より東えの花をかさねよそたいこのつきよくおもしろきふうぞくすいれなご全とかくむけじよそおひも此君狂言おもひれりわざくたゆうを此君にあらく評判よいのせりふぞ仕よかあかるくあつかねり仕としさく声もあたれ色さびしておほ江戸のあふいふて評判はくらねあいりくそれにあたおもれくもあまたそれにし此年に是年すぞ々しおもおもむりのあからぞうきにのさいくこそ思じ年すそおりむり人あうだあことたのかけかひはくじん狂言云けあんせやれ室てたしあさみらぐんの中でそ元出し仕ぬさ数くおくれれど井みもうそうてんぱんのおしませあみえさくこうんじが女子のせるおおさく女子のがえむいきさんのそうふまんかさく云さくせらさきちしてかうき

かおしや花車そういふうなりきわし此君のけいきよ
るうちこなたにもあぐらあぐりけるまくなにやさしけいの
よしあしをさとすに大夫おもけ分その後に下地寄及に
定ルせ云云此世ハ此かしまへ君

○

今うそ来てりつくに身へひかれ花
うつりけふもさんやろきてこうか

若女方　金井半吉

▲此君の面体はにたしなんくさ氣のよろづさきわねお衣を
なにいうかうはしの名ハまにも情をうけて山城の若衆の
まの志君せ今あその衣さ好も活りもらうかやくのおもへ
がほれて本拠所ともそすの国の家のおいへ今代りけて
此さうん出礎りいりし此地うつい表風にたおかの霊のうへ
へお見あかぶんいせいゑるよのさおみ語ゑすげハ後そまかりて
見やりやつしよのそうくは志うたんないてんでいうさるを大和役

こんすけなびやのけいきてらくるん人ね衣ふ初まとしふけなうけ
をりたうのあたりへの御小袖み作く
まりりろもづさらろうりしさ君

○

若女方　京山千之介

▲此君京都花さんハぢんざをさうりのくふのいきうぶやさんづくみ氣
高なんぐやうあんしなさうへてあかその　おうさいわらしくらうさ
あくれしやせんみをいさてうするつげいのあちへふさよりてあん
おさ仰まふしさのきゆうりの今まのか此へ此おうかにおう
ね縁の花りにいかそめてあのおもとさゆう女らいを初のち
てらくるをあさかさづの家ふうにのこさんのあのふれさへるさ
みそかり方一への見せまあふ母あハ甚そとさいき物う物う
のふ村さうりくおう活さ氏りかわあますずで一君あんにいをどゑの
るうあまのりにこをて女方此けいふいふん人に志うしる御れよ
おさびん名きあおさふい中さればゑ志う行末あうふ八の京

くるしみ見ものとちんじやうにくみすまするまさ物ごとを一世ちうじらいて
かつしきふさきやらうすくきやすうよしうくけいあくさふうだ
きあをく見もとひくへけし

主来れぞぞみ山のうすみようらうさく
たまびさあへるよりれあんぶり

○

若女方

岩井平次郎

▲此きうそを見ていあさうあ若衆山村のたゆめんざんに三次き
あ此衣よしあうはうさを田えさ若衆のちうさいはすくさえかし
りさに御ゆりのくけいたざさうは若衆え此若をい目えの若
女方げいよしこのゆりるうんゆはえうゆまぞ此あ殊あれぞ
さるを見あんを田えゆに若見のちうい若うしはめんていあいけう
あえみずのとれ州あうてあのうさかくのあられ一二段を云
もうよめおさうをかりよずくちあくうせたのあくういてい之のきん
あづさよとうんざんの一二るぼど此かありあわねれざる段系

あふうしせのふあるしろ
うわるせくしまさ来いよい平次郎え
まへたのりしきすくさありたり

○

桐波太次郎

▲此家のあらぞくろくわさのざうかはいふ扱かの地しのま若けん
此うわり是うそえ弟れ若は若の勢のきた山はさくあそもかぶ
せのふきをのさをうてしかうは

○

若衆
萩ゆさくそてゆあり西まえはいこま人乃
きりあさえたれよひのまれしく

波多小かん

▲女方はけいあめしさく若衆あんざんにあろのあふうのさへよきを
安めけし今さう来うたゆまのたうよ若あうかさしのふかうへ八ぶ今を
しそ次若にせんそこうのあうきへのあれもてさせのあのよ衣のへ

云ハはんゆうのみつて云なんけいにハこのよ〜とよるつてけい
うつて川なかうきやうがんやう枝にうけたく

あつうんかそれそれなるかるん濱せん
ちるをちしまれ山さくらかな

○

若女方　東川ふじ枝

あづらかのこ名のそめすのへるてこうわそぶうろあるそ
なれは花を保がのせんせんすそは全一ハ花のを
中とあつめし云たれのちてそある良うらん三せんすゑ
あはれそは全せのふかろしかしれ

○

ひしさはのゆうりのくさてかづらつま
つむるそれとかりをもり川

若女方　かつ山りうん

はの西あよしけいのかをなうしかしは云う結す

きよきんざゑへてさてこゝろはおもはりねるくをおはれをも
おりつきたるゐあしおんゆゑなくしかれ

○ うつ山乃あくれこそへよ花されて
んをあもうおもきるへぞきる

若女方

中川かう

▲ばい今のわかりえまたあんかいめくよくさまぎ
うちさ京ん中川のおめし去のくの云ハひ京方がはと
の一ゑよたちへぞろすの目とおかうらじのあれにこゝろ中りを
ゆいつけてひさうつまりじすえをふうろゝろゆ
私のみさく云りおにかのてうれうきまそうよし

○ おつゝうけてたゝせねあくさけふや
まさりくくだてあり川のへお

回

市川団十郎

▲けんぶつ申されふ万物のれいちやうとは人也しかして
こゝをもつてこゝの道たゞひとの氏けいはあくより五あらゆる
てはんさつんかうくその所にて一人の名を世上にて
ひらむこうくやこの人のぶしのせいかむね申されの所のきやう
たるによりゆへの名をあげ五にあらわしと申す者也
すかつすうあぶてあるたゞ世上にひた後うちの
こうひかへおかれうさう氏うのれにまうらく けんじめのやうせ万民
さいのさいをあすらの世とて んいもむうあくおもいあのさく
らのえおもにまゐかやせりと風よりて申うせさん物のさく
るかうてをつかまつるかそていつもこと左うの桜せおつかてうれ
をの人のさうらせへふうかん物申さくおし あへてのさき花屋有

大坂座元 ㊐吉 荒木与次兵衛

▲座本の内に名人とさゝすしほどの者そうさにめらら度
の事也は浪花のらいかくふん加れ大けいをいぶんとかかうに
てかつりさへおかれ大かん物ちいやうんじへかうおかつまさ
すじ浪花名人せさ と あつ座役にめらくかんかつれすか一
おつかわら付るて浪花の武左のかり く又者よのさの其
ありかせ元浪花人にあのさ名人たうせおぶおなりつくさ上
座むきうあく浪花んまつ子死名人かれぞんあよのさこすうなず
又ありのさの名人かれぞんまつうもくあずおよそぜんふ
まうのさぎうつ大こ方かうるうつくへてか名ぞ名ぞかむへくしさ
かよてものかむやせん方うく年ひさつて ときを大坂座元

欠

しよげいの振事はよく女げい気に入りのものにてけいの雪
のせんじうあれバ八わらいすぎ都目がハなれ[illegible]しられおひいや
▲立かおにあいて身ぶりおしますあきなさげ色切ござむ
いさかいいざまうつらうん後やうしぞうせられ乃
取ゆこかね紙かりつゞきたいこれけいなんどうしく

三　萩川茂左衛門

▲けんたうく山村若女形で此比は由の御らしわくゑ
はありそのみやはなやかにあつかい色ありそのけずあるお[illegible]
がまえもこゝろもちよるらひてしそうちやすますあそこのこあ女也初
ち色ありちよんおちんにき世りうかわゆきん[illegible]ゑみ参
人のやさ男もうしなまりかわらいてなんがんな我れの時お
合なかかうりまて助すすりふしなさらいすごん[illegible]ひのいう[illegible]く
ござ色よき[illegible]かんおり君ちうし色をあらて初年いあいそられ乃
おつみゆぐしとうともんみおかうんにうはさんせのこあう芸ふ

あつら山田ら田のうけふ京あらえらうけ当流ちかく
むさかねうちや西行あそうらあうゆうねくらあう
ふるいつきあしをあれであゆしおらん仕合あらみ人ひん
わさきおせいきされしありしうれちうけ申し

仙石彦介

▲ちかくとあさきお仏名のえをたてゝあしこせ給ふあし
あひあしね雲井のまいろ公儀あれ風とらひし西施
みゝさらくあつけいくせんあひてよるを万歳とえあへいせ
みかりいのりまするとうけてうしめんていさうけとらん
ゆうひゆうしよし

岩か宮喜音　安田彦次郎

▲わかいしやまさけいい彦次けいわのあくあそろ長て
万よしあらしいせいの時うちとえうありしき成るあり

欠

欠

みんなくしまい　おもひろいすがたよふよく

同 あら　左近佐兵衛

▲此人のさくぶその仕出しおもしろひことやせたおかし
おかしみのその内にまなことおしだされかはなをさんさん
あり　ありくふさいけれ共たかおこあるもさんざん見るか
ありこおかたみのけいすり　あり人のおもをとの女
みんなかんさいく女形より見すへし所作

香

菅原小主水

▲始色かん出来の形りよし出来よく仕かかり菅原の二字名のた
けの顔かたち遊女で仕出しを相待仕かいかうらんあるへしよろしくやわらかん
れいしてなりおのあさやかさ京にも気色を出しくうたゝ世にた相
付よいは仕合けいの相もあるそてよろしく浅からず若衆方絵も品
○菅原のあかんの名のことかりれいなつかしつをなとそてくそ来也

さるわか小山三二郎

[illegible]

市川團之丞

欠

▲[illegible]

▲[illegible]

岡田中くら

[illegible]

▲[illegible]

山村平八

[illegible]

寳

松本新之介

▲西志よくうつりくわらんの花のさかりにひらしがるい
付を体かたことあつてさん〳〵あかし我たるあまりちらわい
すたてたりしこくおつりれれごさんゆうね拍子しわざゆうにして
つまづく手はじめ方升と山わいたえ文えん云ハておさ〳〵子者
○さすがにゆくゆく何をつくだ山は夜もうまくまれたまのけく

紺屋忠之介

▲まをえにし君の風俗あ月詩花たちえまたをも云はじ
さりとハ紺の色にこもひとしかなつうさくおるおかお
ゐぞへりてなの下ぬおかれひあそたおあん白拍子子ま
はまく芸どうけおし芸によりてつか合せるくせせず
芸りし宮舞にあまりはくくみ流りることもありし
○紺忠の芸きき目そうけあびのむまぶちぢきりか未もるがされ

尾上紋三郎

▲此君より田のみの世上の芸ことく世に方おしなべてのさき
とをも有にしれにさ里ゆうよく方子あり付よきげハ愛
あいさゆうかそあし立さん子せり分ちあへこくいり上手
名人のみ流言大さんゆうりなどのかく
○さりあつ梅の花がくそひて何ひもなれものへ念
え

松山亀之介

▲当狂言さけるげにさん当り出落にうりさくあめおもし衣更に
云ひ子す芸りし義太夫ハさいとりげかむりをそりしるもなこの
たとい先道にさゆうあくげい体かりせんのへかいかたのと
○松山のあの下かげにまだざりそて花もなかりあて立者への
なん

坂本門之丞

▲座料うつらくへきまうぎ女をおしてをゑられ候しげ
いはずして初むつ出勤せりふを見せずさりとは出前
あがあく京にあせをみごさうなりおしは若衆は若衆とよりの
女方さがきそそれ故の若衆方をさ立テおきさわかつて女がた
をつせわらつて見るいかにかたく仕かたの中ても一段は若衆
きさ見やうよく世れかの夜松本と云ル名にあまりもく今さわる
立よつて一度の名人にならとげいさなにござらぬかにおく云
依きて情れの引まふし一夜は其よりぶん立成るへく八重さん八
とひをもよびよく定更元なる三つのかぶれあるへかし
○
すかげあつみをとおくハありられず
あまり師りひの花ありうけ候に

松本小四郎

▲がんさよくあもくそてよびいのとの大かん中つげいふね
あ　さりあがつすりふならうあく　あざやかれさこゑう

おいぶんはせいの出しよふへかし
○若衆まつ良くは月のちまかへてたれ夜をたびの頃わるの元

沢木平七

▲きつ見やうら　かぶれ風俗いやかずらんひさうく
うれさくそのあやさと少なそ形あちりハちいさく
ぞのむりあさうしとそくおてられぬ一若
○あたのいゝでつか合いさるよくおでたさ一若づつねで此利

井山梅之介

▲先年みかれに此若衆をさくさ中のまあかごくらいとうら
のこせさ見されさらへやもついくて此若衆かおきらうたのあり
あかへは若衆出された二つむしるかいうえのかき人たし
役作のれりかしとの御同ねにらいうらあそて此
若つこかれらずすおうりんなさるゆう　あへきさ見やうな役本

ふさう上づ…
○…梅…

生嶋大吉

▲…のふうぞく…梅花のつぼみ…
のち…ふかさうん…
ちう…
○え三…年…

袖嶋田村

▲きうゆうよしげのおわん…
…
げいけいみ…
…
かん…いとぐ…

宮崎元三郎

▲西行あいきやう…よく…
…
…げいくとも…
○花…

濱田彦五郎

▲きゆう…
…
…
○あさ…

此次　立役者。おく方。小形方
　　　若衆方。女方。ちやせん　惣ふ付

中村七三郎

▲あいぞくせうのまれ人の当代ならべてのなれ姿げいの
のこさずしほ元にはいてどうむらいどうじやいらいのぜん
せいの花ざかりき三十はの名人名たんぜんのみなもと
お代みせんの始る二才一の汁くおとこやかくさげいの元ま
けなり大名のいろ道にあつまりてかまえ旅からよ
みて格からりれぶり出ていらね役も気さかえやとあ
かさうがく一座のげいは諸国まくいよからうてあんじやうれぞ
きそのつかひくきかねうくちんへとかわきを立てよこぞきた
たちやうおりのまごのてこんべたきさうなるをやすやうそ
此本にろくさて若衆中村の家をえ見ぬ事じおたかなる
おつ一おみうさ一ねる一三郎とくのおさえにたいこせうち
てさせおいさての太うたんにハかん和のあんさきやすじ
ねまうハねまのこハや立かるとのすわんねまのなく

出す事一あんバわざの入るさそうろのの名冊あおちらん
のまさぞむこそらへ公人の始出にハあさの女舟只人をまず
手ならりも宝傳のかれハう子すあざに花をもろいも禄られ
ぞこそ古今んら口格にあるじきらの技もらによやられて
うつりゆめろ稀ずとにも尻きにて格の手の年もせ三寿
をゆふてのおもいハおくきんぞえさうぐ女舟ぐれおしたえさ

宮崎傳吉

▲古来かのぶつさいせいの名が不出生じ花のつお合細に気色付
引すのよくいいろて絡月おれいらうおんせ其れ大風をも見ゆおく
うなみんじろのまさつくをとせうさせとのつわひきさよわね
はとのれえとおやそんく学軍法の一利摘手家をとおり
おのてちおうけいやみくの立へ名りしろ万おうきやうぬ立
役おれ大いやさき宵さ元和のおうかむきけれちくらうさううハね
おごふずすひやりじ立よおさすがひらいはそへそうもおくこ付ぬ

西村孫平次

[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]

村山[illegible]次

[illegible]

ん二冊おのかの出しごんひさりく女もて一かしありけるにて
あはれなりしに芸やせ大かたにあはれ大今ハされ村山と
云ルものかしこれをよくみくげのくらいかくハれあれ大きり
きりさん二成てどうけいらくさすがれへおあいふやかを
取よりてりを付られそうけひく人のやちんどうりし也て
のぞく一押せみなへ云り　きよさきうさん芸つけぶんよしろ
ずくいよねまよし座中しきおのよりあくし

山川喜之介

▲さきかんせあいねれハとぞれにおもふさて仕人一きとうせん
のさこせし人々かれ大今ハあれ一人のよろかずれさうんの内に
きまいかりて今かりのすたもおらじ芸ひあたりきおう
座りこ冊おのいきりくさ仕人まんあるいて只かにいりてあく
やさんすりくせいふせてられこき芸たりありかりくた
ちんぞうよりて座中もきひのしば山川の名一天下にくれ無

くの今まれさきくせせぬそそこのろく

市川團三郎

▲去年よりこの度大小芸かれ大々かんかんせのふとさびよし
かたいまもせうかれおりのたさきうへん也同おもし
ひとしハきせうまいり市川の名代なりつよれ友仲間そ
をかしきくれふせいへをもけいたて思ひてきんか狂言
も押されて狂言きもつまりしれハの仕うねかへみと
いせいの時きみのかれよの野郎さの云ハあらし人さを
それずそのよ大ぜいのくさをあいけのかけさかくやいさ
るさうかしほくきてげひひすみくすの若衆よしかき
きつるすもけいこあれらし今かきつまりかいろぞ行末さよし

山中平九郎

▲おいおもら付くらこあく万事のこさいろ立役きゝしぶさん

うまんむまん有よふく口ねの道へ出市川介とよとせかむかし大
さうて当世の上ひの沢ら井村芝居にえたゞへのおとくに
ぬれのひくんしがうぐへとぜんせいしかさるこそのうちにゆうぜんかう
あれひて田京荻野ものたかいより沢ら井にも世のおもしろへてい
れきいを見おかたつに出山中平九郎もりゑそあんとうは也に
あきまゐくれんどうよろつぶんへ在に毎にあかしむりふだんに道
もりせのふ風りりてあぐまうとせず年々さむさあふそ
わしあるへみて芸ただまうたんよ道ねれまよさおずかなきよ道

同

大熊宇田右衛門

▲此人ハおよりうえに此芸惣うたまつこち毎に男がたに　為立
りえに此れ付さかりまつ道とひよりたまさこさん西ろまりしさう
そうの年々あちくとげい私おもしとりそう今ハ本かれおう
木花さへりとや芸たおもしへまくろへきうへんきねれ師し
きのさうしせのふぐうくりてお安ゆくききなりり

荻田平三郎

▲元ハ分西白にてあくげおち芸悦と浄瑠璃へれ南しとひしとね
人へんぐうよあくひやけしあまてあらを色ゝ修ゝりさりて万熊兄
そへいりとゆきに至西ろろへまおに大へさくあそ次第まんの
だつまた大郎とかれそ遊すび人京都へ出もりあさけれまりてゝ沢梅
のよしいりたとやす右安八ろことりき衣ち芸さりおもく見
ほうえんも此人なせろミ八ろき見太郎をろくげいあいにろうろ出
て江戸の私芸へ入るゝ人京がハいりね見ま乃まちよいおそくに

森田小左衛門

▲きり田の沢ゝあまりおまえだいりぐくにあがりつかあさ
ちうろもあく世ハりへ出もちにし出もうろぜんひおいやと
おんおてろうずへいをヨ手すてさん地おもしろれをさ
さまてさ仕のこうしかろ身ひもろもあくへ此部

たいこやくのまゆふりめしうちてうげんちのひとく
あくてうかまれ上ゐくわんぜうありしろくぞう
まのこいうなへのふみあいやくのまたをこえくたを
ひとつれ、きやうげん所にすてゝありろしその中
にはへの思くらるへ老人をかうし

[illegible]源八

△此人あしこうくあにまれかけてもあくまをとう
ぬたちやく武たえんぜう老おさありてでんじを
のうけれちてがくさゝよのかん有むし座さんらうか
やくのりみぢらうりらうぜんのいきうくたゆそく
所ぶろい出しところへ云あぶりあんじいすでせのふ
あまりたぞさらすとのさされぞうりぬゆる
せく　若ゐすよ氏役げい

富沢半三郎

△きりまりう人へてゐ去たくさき役どうぐこまもあいよし
ごんひえあんえんさん拙とひ付あとひゆうじ逸おくゆとひ出し
ゆへ立役のゆびありあらん此あいこかうあたてえんえん
おし　おかくろむつ　ありき左あんこのりきるか

生嶋半六

△ゆゑたゐんかしはとされにきころもどうつきあのれにしれ
の役役者らへえ取逸まらうのよふ性逸ゐ拙に二番あんせ
ひあれすげいいいさうしてあんえるし

生嶋新五郎

△老たそいうのにをありやくゐいあらじ　あそしこを
いくまかのれたるずひそてまうきよのかかくあくしあこを

302
11

印行三百部之内
第　　號

こんなまづ是よりいゝのをつけなさつておゝやのの是で当
今めうぜんせいにてあなたのゆきおとこゞでつき
うたせんにおつかへなさるもとゆいのおそこがつさへ
しかんなの中村右門のやまおもみそおへ行
来大さかきて町をとさりんなのりんとさかのと

立役　〇〇十郎

▲此人のかみ当地へ一二ヶ年くらいおへんせいのおもてすくして
是をおくおしまうしおみつてあるいハ言かとかけたらん
ゆハ今なり手大きなもだしいまさこれ於けいさんて
そのうえ浄せんぜいぶんよく上手をみてきよ事め

同　出来隠　長右衛門

▲おきそしおまだもとけいの是なおり付一つさおせぐ
於くさ付れ村すりふさかめさんなさこうさえくり

終